

支える人の学びの場

医療および教育専門職のための

こころ塾 2016

発達障害の理解と支援：先端の知と実践をつなぐ

2016. 10. 8 (土)、10. 15 (土)、10. 22 (土)

各日とも 10:00～17:00 まで (受付開始 9:30～)

京都大学 稲盛財団記念館3階 大会議室

現代の社会には、人を支えることを仕事としている人たちがたくさんいます。中でも、教育や医療の現場で働く人たちは、子どもやお年寄り、病気の人や身体の不自由な人たちが安心して暮らせる社会の、一番の担い手でもあります。そして、支える人たち自身も元気で健やかに毎日を過ごせることが、私たちのめざす日本社会の姿ではないかと考えます。京都大学こころの未来研究センターでは、こうした考えのもとで「支える人たちが元気になる学びの場」を作ることを発想し、2013年から「こころ塾」を開講しています。【医療および教育専門職のためのこころ塾2016】は、3日間コースで実施します。多数の皆さまのご参加をお待ちしています。

定員: 100名 (申込による先着順) ※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

参加資格: ◇学校教員および教育関係の仕事に就いている方
◇作業療法士、理学療法士、臨床心理士、言語聴覚士の実務経験が3年以上の方
◇3日間全日参加できる方

情報交換会費: 1,000円 × 3日 (初日に集めます)

主催: 京都大学こころの未来研究センター

共催: 京都大学大学院医学研究科 脳機能リハビリテーション学分野 発達障害系研究室



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER • KYOTO UNIVERSITY

こころの未来研究センター

プログラム

| | |
|-------------|--|
| 9:30~ | 受付開始 |
| 10:00~12:00 | 講義① 乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授) |
| 12:00~13:00 | 昼食 |
| 13:00~14:30 | 講義② ゲスト講師 |
| 14:40~15:20 | 事例(実践)報告 |
| 15:30~16:00 | グループディスカッション |
| 16:00~17:00 | 講師とのQ&A |

10月8日(土)

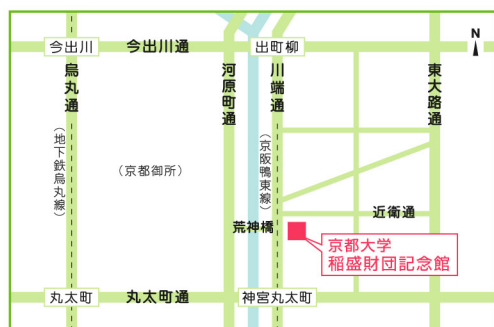
- 『感情と身体性:感情の役割とその神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『周産期からの身体感覚と認知機能の発達』
明和政子 (京都大学国際高等教育院/大学院教育学研究科・教授)
- 実践報告 小川詩乃 (京都大学大学院人間・環境学研究科・日本学術振興会特別研究員PD)
田村綾菜 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所・リサーチレジェンド)

10月15日(土)

- 『円滑なコミュニケーションを支える神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『「社会性」という観点からみた精神科の病気と臨床』
村井俊哉 (京都大学大学院医学研究科・教授)
- 事例報告 山本香織 (市立福知山市民病院・作業療法士)

10月22日(土)

- 『言語・非言語コミュニケーションの神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『イマドキの思春期の問題を考えるーネットのなかに拡散していくこころー』
岩宮恵子 (島根大学教育学部・教授・臨床心理士)
- 事例報告 小松則登 (愛知県心身障害者コロニー中央病院・作業療法士)



京都大学 稲盛財団記念館3階 大会議室
(京都市左京区吉田下阿達町46 [川端近衛南東角])
<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/about/access.html>

申し込み方法

E-mailでお申し込みください。件名に「こころ塾2016 申込」と明記し、必要事項を記入のうえ、お送りください。

必要事項

- ①氏名(ふりがな)
- ②所属先
- ③職種
- ④経験年数
- ⑤返信用メールアドレス
- ⑥受講動機・受講のきっかけ
- ⑦こころ塾で学びたいこと・講師への質問など

※⑥⑦は簡単にご記入いただければ結構です。
※受信後、こちらから受付のメールをお送りいたしますので、下記アドレスからメールが受け取れるよう受信設定をお願いいたします。

連絡先/申込先

京都大学こころの未来研究センター
リエゾンオフィス(平日9時~17時)

E-mail: kokoro-m@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

